

「福島子ども・こらっせ神奈川」活動報告

2024年度・2025年度

福島子ども・こらっせ神奈川



「福島子ども・こらっせ神奈川」活動報告

1 福島スタディツアー

2024年度・2025年度

2 リフレッシュプログラム

2024年度・2025年度

3 省庁交渉

4 連帯行動

5 私たちの課題

1 福島スタディツアー

① 2024年8月9日

- 宿泊先は福島に心を寄せる方々の常宿・双葉屋旅館
- 夕方は櫻井勝延前南相馬市長のお話を聞きました
- 双葉屋旅館に隣接して「おれたちの伝承館」があります
- 学生たちはここの展示が一番印象深いということでした



1 福島スタディツアー

②2024年3月10日

- イノベーションコースト構想の一部、浪江町棚塩産業団地はドローンテストフィールドなどの最新技術の実験場
- 請戸小学校ー伝承館ー富岡漁港ー楡葉町の伝言館と南下
- 震災遺構の請戸小学校でみた津波被害の凄まじさに驚愕



1 福島スタディツアー

③ 2025年8月7日

- 8月7日小型バスで横浜駅を出発（参加者：10人）
- 楡葉町 伝言館（楡葉町・宝鏡寺内）到着 故早川篤雄住職が建てた資料館で説明を聞く
- 富岡町 住民の大半を占める原発労働者向けアパートが林立



1 福島スタディツアー

④ 2025年8月7日

- 大熊町 大熊町立「学び舎夢の森」建設費56億
中間貯蔵事業情報センターの「CREVAおおくま
- 双葉町 人影がまばらな双葉駅 住人186人
- 伝承館 原発事故の展示がすくない



2 リフレッシュプログラム

① 2024年8月9日

- 山形の山村・大江町の「やまさあーべ」が開催場所
- 川水を利用したウォータースライダー、高さがあるので最初は怖いけれど
- 火起こしからはじまるカレーづくり
- 夜は恒例の花火、星空ウォッチングもしました



2 リフレッシュプログラム

②2024年8月10日

- 朝は近くの田んぼや池で生き物探し
- カエル、ゲンゴロウ、ドジョウなどたくさん捕まえました
- 「やまさあーべ」に持ち帰り、図鑑をつかい名前をみんな
で調べました
- 昼食は郷土料理の鯖缶、納豆で食べる「ひっぱりうどん」



2 リフレッシュプログラム

③2025年8月8日

- 2022年から福島の子ども施設とコラボ
- 裏磐梯の桧原湖キャンプ場で開催
- 小中学生13人（コロナで3人不参加）大人18人（施設関係7人）
- カヌーに挑戦 みんな興奮
- パドルの使い方を練習し、ペアになって漕ぎました



2 リフレッシュプログラム

④2025年8月8日

- 昼食はカレーで、みんなおかわりをしました
- 午後は湖水浴 低い気温でも果敢にチャレンジ
- 帰りは対岸までモーターボートで行きました
- 子どもたちの感想は来年のリクエストが多数



3 省庁交渉 2024年度・2025年度

- 2012年に神奈川の保養団体のネットワーク「いのち・神奈川」結成
- 2013年から、毎年「いのち・神奈川」省庁交渉を実施、当初の交渉目的は文科省の「ふくしまっ子自然体験・交流支援事業」のチェック
- 2024年度、2025年度からこの事業と子どもの健康にフォーカスしている

2024年度省庁交渉



2025年度省庁交渉



2025年度省庁交渉



4 連帯活動

①東日本大震災かながわ追悼の夕べ

- 2014年から毎年、3月10日に、311で亡くなられた方への鎮魂を祈る「東日本大震災かながわ追悼の夕べ」が開かれています
- 2025年は福島出身の歌人・三原由起子さんの短歌とトーク
- 2026年は汚染が最もひどい浪江町津島地区の現状が語られました
- 「こらっせ」は第1回目から参加し、活動を伝えるブースをだしています



4 連帯活動

②生活協同組合

- 生活クラブ神奈川：生活クラブ神奈川が中心で運営している「東日本大震災・復興祭り」は2013年からスタートしましたが、「こらっせ」は当初から参加、ブースをだしています。毎回、収益からの活動応援金をいただいています
- パルシステム：パルシステムの市民活動応援プログラムには2017年から継続して支援金・応援金をいただいています、リフレッシュプログラムの費用にあてています。去年はパルシステム連合会の機関誌に、榎葉出身の事務局スタッフの記事が掲載



4 連帯活動

③福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会

- 2012年7月：浪江町は「放射線健康管理手帳」を町民に配布
- 2022年4月：政府は避難指示区域の医療費などの減免措置を廃止
- 2022年10月：「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」結成
- 2025年6月：「守る会」を含む全国10団体が省庁交渉
- 「こらっせ」は「守る会」のメンバーとなり、総会や省庁交渉に参加、署名集めに協力

2025年11月「守る会」総会



2025年6月10団体省庁交渉



4 連帯活動

④ 裁判傍聴・省庁交渉参加

- 裁判傍聴：2022年1月「311子ども甲状腺がん裁判」が提訴され17回の口頭弁論「こらっせ」は支援の賛同団体となり、事務局は1回目から毎回、裁判傍聴に参加
- 他団体の省庁交渉参加：文科省が子どもたちに配布している「放射線副読本」の内容を批判して地球救出アクション97と原子力資料情報室で実施している省庁交渉に参加
- 6・17最高裁共同行動：原発関係訴訟への不当な最高裁判決に抗議する行動に賛同



5 私たちの課題

① 財政難・人材難

- 財政難

子どもだけのプログラムは親子保養よりお金がかかり責任も重い

従来の賛同金制度の中止（賛同者の高齢化）・補助金の募集や寄付が少なくなる
パルシステム応援金などの助成金がなければリフレッシュプログラムは継続不能

- 人材難

シニアスタッフの高齢化・体調不良

ユーススタッフの就職・結婚

大学生のアルバイト先での戦力化、活動時間の不足

2022年 子ども甲状腺がん裁判がスタートして励まされる

5 私たちの課題

② 今後の方向性

- 「フクシマ」を忘れない、自分事とする
- 従来の活動を縮小しながらも継続し、「フクシマ」の現状を知らせていく
- 国に原発事故による被ばくの責任を認めさせる
省庁交渉の充実 連続セミナーの開催、ロビー活動
- 福島原発ヒバクシャへの「健康手帳」発行を要請
- 避難指示区域の医療費減免措置廃止の撤回を要請
- 被ばくをテーマにした裁判や省庁交渉と連帯する

